

自己資本の充実の状況等について

当行は、自己資本比率規制（第1の柱）に関する平成18年金融庁告示第19号（以下、「自己資本比率告示」という。）の一部改正にともない、2013年度末より、バーゼルⅢ基準により自己資本比率を算出しております。

以下の記載の開示事項は、平成26年金融庁告示第7号（以下、「開示告示」という。）に基づく開示事項になります。

自己資本の構成に関する開示事項

●連結自己資本比率（国内基準）

（単位：百万円、％）

項目	2021年 3月期	2022年 3月期
コア資本に係る基礎項目		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	45,205	46,963
うち、資本金及び資本剰余金の額	2,001	2,001
うち、利益剰余金の額	43,264	45,022
うち、自己株式の額（△）	-	-
うち、社外流出予定額（△）	60	60
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△21	△29
うち、為替換算調整勘定	-	-
うち、退職給付に係るものの額	△21	△29
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	-	-
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	-	-
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	996	1,400
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	996	1,400
うち、適格引当金コア資本算入額	-	-
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	604	403
非支配株主持分のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
コア資本に係る基礎項目の額	(イ) 46,785	48,738
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	211	506
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む。）の額	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	211	506
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	-	-
適格引当金不足額	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-
退職給付に係る資産の額	-	76
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	-	-
特定項目に係る十パーセント基準超過額		
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-

特定項目に係る十五パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-
コア資本に係る調整項目の額	(ロ) 211	583
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ))	(ハ) 46,573	48,154
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額	382,676	390,473
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	4,479	4,479
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	-	-
うち、繰延税金資産	-	-
うち、退職給付に係る資産	-	-
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-	-
うち、上記以外に該当するものの額	4,479	4,479
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	18,123	18,586
信用リスク・アセット調整額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-	-
リスク・アセット等の額の合計額	(ニ) 400,800	409,059
連結自己資本比率		
連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.62	11.77

●単体自己資本比率（国内基準）

（単位：百万円、％）

項目	2021年 3月期	2022年 3月期
コア資本に係る基礎項目		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	44,232	45,895
うち、資本金及び資本剰余金の額	2,001	2,001
うち、利益剰余金の額	42,291	43,954
うち、自己株式の額（△）	-	-
うち、社外流出予定額（△）	60	60
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	-	-
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	978	1,382
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	978	1,382
うち、適格引当金コア資本算入額	-	-
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	604	403
コア資本に係る基礎項目の額	(イ) 45,815	47,680
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	210	505
うち、のれんに係るものの額	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	210	505
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	-	-
適格引当金不足額	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-
前払年金費用の額	38	51
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	-	-
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-
コア資本に係る調整項目の額	(ロ) 249	556
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ))	(ハ) 45,566	47,124

リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額	382,720	390,483
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	4,479	4,479
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	-	-
うち、繰延税金資産	-	-
うち、前払年金費用	-	-
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-	-
うち、上記以外に該当するものの額	4,479	4,479
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	17,597	18,061
信用リスク・アセット調整額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-	-
リスク・アセット等の額の合計額	(ニ) 400,317	408,544
自己資本比率		
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.38	11.53

定性的な開示事項

1. 連結の範囲に関する事項（開示告示第12条第3項第1号）

イ、自己資本比率告示第26条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団（以下、「連結グループ」という。）に属する会社と会計連結範囲に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因
連結グループに属する会社と連結財務諸表規則に基づく連結範囲に含まれる会社に相違点はございません。

ロ、連結グループのうち、連結子会社の数並びに主要な連結子会社の名称及び主要な業務の内容

- 連結グループに属する連結子会社は以下の2社です。
- ・ 岳洋産業株式会社（店舗用不動産の賃貸管理業）
 - ・ 静岡中央信用保証株式会社（信用保証業務）

ハ、自己資本比率告示第32条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

自己資本比率告示第32条が適用される金融業務を営む関連法人等はございません。

二、連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれない会社及び連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれる会社はございません。

ホ、連結グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要

連結グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等は特段ございません。

2. 自己資本調達手段の概要

（開示告示第10条第3項第1号 第12条第3項第2号）

自己資本調達手段		概要
普通株式	24百万株	完全議決権株式
非累積的永久優先株式	一百万株	
期限付劣後債務	一百万株	

3. 自己資本の充実度に関する評価方法の概要

※銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要

（開示告示第10条第3項第2号）

※連結グループの自己資本の充実度に関する評価方法の概要

（開示告示第12条第3項第3号）

当行では、良質な資産の積上げと着実な収益の積上げによる内部留保の拡大により十分な自己資本を確保するよう努めているとともに、自己資本比率等を指標として健全性を評価しております。また、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスク（事務リスク、システムリスク他）等、当行の直面するリスクに関し、それぞれのカテゴリー毎に評価したリスクを総体的に捉え、自己資本と比較・対照することによって、リスクに対して自己資本が十分であるかなど充実度を確認しております。

4. 信用リスクに関する事項

（開示告示第10条第3項第3号 第12条第3項第4号）

イ、信用リスク管理の方針及び手続きの概要

○リスク管理の方針及び手続きの概要

信用リスクとは、取引相手先の信用状態の悪化等により、与信取引の価値が減少ないし消滅し、損失を被るリスクをいいます。

当行では「信用リスク管理規程」に基づき、個別債務者に対する厳正な与信審査・管理による「個別与信管理」（取引相手先ことまたは取引ごとに信用リスクの状況を把握・判断）と、銀行全体のポートフォリオにおいて、特定の大口取引、業種、地域、与信形態など、同種のリスクへの過度の与信集中を回避するなど信用リスクの分散を図る「ポートフォリオ管理」（与信資産全体を一つの集合体として捉え、全体として信用リスクの状況を管理すること）を行っております。

「個別与信管理」については、審査部門が個別債務者毎、個別与信稟議毎に、信用状況、財務分析、資金使途、返済計画・能力等により適切な与信判断をするとともに、実行後は常に個別債務者の信用状況を把握し、定期的に信用格付を実施し、定期的に経営に報告するなど適切な事後管理に努めております。

「ポートフォリオ管理」は、銀行全体の与信ポートフォリオについて、信用リスク管理部署が、大口個社や大口与信グループ、業種別与信の集中度合等について、定期的にモニタリングを行うことにより、与信集中によるリスクを回避しているとともに、信用リスクの計量化、モニタリング結果を定期的に経営に報告するなど適切な管理に努めております。

※信用格付とは、行内の信用格付制度で、個別債務者に信用度に応じた信用格付を付与して分類するもので、案件審査や与信管理、与信ポートフォリオのモニタリングなどに利用しております。

○自己査定と償却・引当

自己査定とは、債務者区分及び担保・保証等の状況をもとに債権回収の危険性の度合いに応じて資産分類を行うものです。

当行では、金融検査マニュアル等に即した自己査定基準および償却・引当基準を定めており、自己査定を定期的に行い、適切な償却・引当を行っております。

貸倒引当金は、償却・引当基準に基づいて計上しており、債務者区分が「正常先」「要注意先」に該当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の貸倒実績から計算した将来の予想損失額を一般貸倒引当金に計上しております。

「破綻懸念先」「破綻先」「実質破綻先」に該当する債権については、担保・保証等により回収が見込まれる部分以外の額について、個別貸倒引当金の計上等を行っております。

ロ、標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項

当行では、保有資産のリスク・ウェイトを判定する上で、すべてのエクスポージャーについて以下の4社の適格格付機関を使用しております。なお、証券化エクスポージャーの種類に応じた適格格付機関の使い分けは行っておりません。

・「R&I」「JCR」「Moody's」「S&P」

5. 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続きの概要

（開示告示第10条第3項第4号 第12条第3項第5号）

信用リスク削減手法とは、担保、保証、貸出金と預金の相殺等により、保有債権のリスクを削減する手法をいいます。

当行では、貸出等の与信取引を行うにあたり、返済可能性に関する十分な検証を行っておりますが、その上で、信用リスクを軽減するために、担保や保証等をいただくことがあります。当行が適用している担保や保証の種類としては、担保では預金、有価証券、不動産等があり、不動産担保が大半を占めています。保証では、信用保証協会、政府関係機関、地方公共団体および、債務者の親会社による保証が主となっております。担保・保証の評価や管理等の手続きについては、当行が定める行内規定に基づいて、適切な取扱いを行っております。

また、貸出金と預金の相殺を行う取引としては、手形貸付、割引手形、証書貸付、当座貸越、債務保証等を対象としており、行内規定に基づいて手続きをしております。

なお、自己資本比率算出にあたっては、自己資本比率告示の要件を満たす適格担保および適格保証、および、貸出金と自行預金の相殺を、信用リスク削減手法として適用し、リスク・アセットを削減しております。適格担保の内容としては自行預金、国債、上場株式等、適格保証の内容としては住宅金融支援機構（前住宅金融公庫）や政府関係機関、地方公共団体の保証などが主なものです。

6. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続きの概要

（開示告示第10条第3項第5号 第12条第3項第6号）

当行では、派生商品取引及び長期決済期間取引は行っておりません。

7. 証券化エクスポージャーに関する事項

(開示告示第10条第3項第6号 第12条第3項第7号)

当行では、証券化取引へのオリジネーターとしての関与はありません。また、投資家として当行以外のオリジネーターによる証券化商品の購入はありません。

8. マーケット・リスクに関する事項

(開示告示第10条第3項第7号 第12条第3項第8号)

当行では、自己資本比率算出においてマーケット・リスク相当額と準補完的項目の算入は行っていません。

9. オペレーショナル・リスクに関する事項

(開示告示第10条第3項第8号 第12条第3項第9号)

イ. オペレーショナル・リスク管理の方針及び手続きの概要

オペレーショナル・リスクとは、内部プロセス・人・システムが不適切であること、もしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから生じる損失にかかるリスクをいいます。

当行では、リスクに関する包括的な行内規定である「リスク管理基本規程」において、オペレーショナル・リスクとして、事務リスク、システムリスク、法務リスク(リーガルリスク)、風評(評判)リスク、有形資産リスク、人的リスク、その他オペレーショナル・リスクの7つに分類し、オペレーショナル・リスク管理規程を定め管理しております。

また、個別に行内規定を定め、各リスクについて、それぞれ事務部、システム部、コンプライアンス統括部、経営管理部、人事部等の管理部署が個別リスクを管理し、事故データ等の蓄積を行っているほか、リスクを統括する常務会に定期的にリスクの状況に関する報告を行っております。

ロ. オペレーショナル・リスク相当額算出に使用する手法

当行では、自己資本比率算出上のオペレーショナル・リスク相当額の算出にあたっては「基礎的手法」(注)を採用しております。

(注)「基礎的手法」とは、自己資本比率算出において、オペレーショナル・リスク相当額を算出するための一手法であり、1年間の粗利益の15%の直近3年間の平均値をオペレーショナル・リスク相当額とするものです。

10. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続きの概要

(開示告示第10条第3項第9号 第12条第3項第10号)

出資等のリスク管理につきましては、資金証券部において定期的にリスクを評価し、その状況について、ALM委員会や常務会等に報告を行っております。

市場リスクの計測は、バリュー・アット・リスク(以下、「VaR」という。)による分析を行い、VaRの算定にあたっては、分散共分散法(保有期間3ヵ月、信頼区間99%、観測期間5年)を採用しております。

11. 銀行勘定における金利リスクに関する事項

(開示告示第10条第3項第10号 第12条第3項第11号)

イ. リスク管理の方針及び手続きの概要

「リスク管理及び計測の対象とする金利リスクの考え方及び範囲に関する説明」

金利リスクとは、金利や為替、株価などの変動によって、保有する資産・負債の価値が変動し損失を被る市場リスクの一区分であり、運用・調達金利変動の形態に不一致がある場合、金利変動に伴い資金利鞘が縮小したり、逆鞘になったりすることにより、損失を被るリスクをいいます。

銀行勘定における金利リスクは、預金、貸出金、有価証券など、すべての金利感応資産・負債を計測対象としております。

なお、連結子会社の資産及び負債を加えた金利リスクは、銀行本体の金利リスクと比較して影響が軽微であると判断しており、そのため連結ベースでの計測は行っていません。

「リスク管理及びリスク削減の方針に関する説明」

当行では、業務運営上生じる様々な市場関連リスクを認識した上で、それぞれのリスクについて適切な管理運営を行うことにより、リスクの軽減を図ることを、市場リスク管理の基本方針としております。

金利リスク量を適切にコントロールするために、資金証券部が金利リスクの状況をモニタリングしております。具体的には、計測可能な金利リスクについては金利リスク量を計測し、また、ストレス・テストやシミュレーション分析を行って、金利・株・為替市場が大きく変動した場合に、当行が抱える金利リスク量や、当行の損益がどのように変動する

かを試算しております。

「金利リスク計測の頻度、ヘッジ等金利リスクの削減手法(ヘッジ手段の会計上の取扱を含む)に関する説明」

当行では、資金証券部が金利リスクを含む市場リスクの状況について毎月開催されるALM委員会に報告し、ALM委員会では全体の資産と負債のバランスを管理するなか、定期的に運用・調達のギャップを把握し、金利変動に伴うリスク量の測定を行う等、金利リスクのコントロールを行っております。

なお、金利変動リスクをヘッジするためのデリバティブ取引は行っていません。

ロ. 銀行勘定における金利リスクの算定方法の概要

「開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE及び△NII並びに銀行がこれに追加して自ら開示を行う金利リスクに関する事項」

△EVE(金利ショックに対する経済価値の減少額)及び△NII(金利ショックに対する金利収益の減少額)については、開示告示等に基づき計測しております。なお、これらの計測にあたっては、以下の前提に基づき計測・管理しております。

a. 流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期

1.25年

b. 流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期

5年

なお、コア預金(流動性預金のうち、引き出されることなく長期間銀行に滞留する預金で、「①過去5年の最低残高」、「②過去5年の最大年間流出量を現在残高から差し引いた額」、「③現在残高の50%相当額」の3項目のうち、最小の額として算出)は、平均満期2.5年、最長満期5年として算出しております。

c. 流動性預金への満期の割当て方法及びその前提

流動性預金への満期の割当ては、金融庁が定める保守的な前提によっております。

d. 固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提

貸出の期限前返済や定期預金の早期解約は、金融庁が定める保守的な前提によっております。

e. 複数の通貨の集計方法及びその前提

通貨毎に算出した金利リスクが正値となる通貨のみを単純合算しております。通貨間の相関は考慮していません。

f. スプレッドに関する前提(計算にあたって割引金利やキャッシュフローに含めるか否か等)

割引金利にはスプレッドを含めず、キャッシュフローにはスプレッドを含めております。

g. 内部モデルの使用等、△EVE及び△NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提

内部モデルは使用していません。

h. 前事業年度末の開示からの変動に関する説明

2022年3月期の△EVEは、固定金利貸出の減少を主な要因として、前期末比686百万円減少の7,704百万円となっております。

i. 計測値の解釈や重要性に関するその他の説明

当期の△EVEは、重要性テスト(注)の基準値である自己資本の20%以内に収まっており、問題ない水準となっております。

(注)重要性テスト…バーゼルⅢ第2の柱の「銀行勘定の金利リスク規制」に基づき、自己資本に対する△EVE(金利ショックに対する現在価値の減少額)の比率を金融庁がモニタリングするもの。

「銀行が、自己資本の充実度の評価、ストレス・テスト、リスク管理、収益管理、経営上の判断その他の目的で、開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE及び△NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項」

当行では、銀行勘定(資産・負債勘定のうち、貸出金、預金、有価証券など)における金利リスクを算定するにあたり、計量可能なリスクについては、ベース・ポイント・バリュー(BPV)(注1)、ギャップ分析(注2)、VaR(注3)などの計測手法を用いて、計測しております。

また、ストレス・テストやシミュレーション分析を行い、金利が大きく変動した場合等に想定しうる損失額等の把握を行うとともに、バックテスティングにより、計測結果の検証を行っております。

(注1) BPV…金利が0.01%変化した場合の時価損益の変化

(注2) ギャップ分析…資産負債の残高を将来の金利改定期ごとに集計して、そのギャップを分析する手法

(注3) VaR…一定の確率の下の予想最大損失額

定量的な開示事項

1. 開示告示第12条第4項第1号

その他金融機関等（自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額

該当する会社はありません。

2. 自己資本の充実度に関する事項（開示告示第10条第4項第1号、第12条第4項第2号）

●信用リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2021年3月期				2022年3月期			
	単体		連結		単体		連結	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
信用リスク (A) (標準的手法)	382,720	15,308	382,676	15,307	390,483	15,619	390,473	15,618
【資産（オン・バランス）項目】 計	381,398	15,255	381,354	15,254	389,409	15,576	389,398	15,575
現金	-	-	-	-	-	-	-	-
我が国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-
外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-
国際決済銀行等向け	-	-	-	-	-	-	-	-
我が国の地方公共団体向け	-	-	-	-	-	-	-	-
外国の中央政府等以外の公共部門向け	-	-	-	-	-	-	-	-
国際開発銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-
地方公共団体金融機構向け	-	-	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	453	18	453	18	453	18	453	18
地方三公社向け	-	-	-	-	-	-	-	-
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	5,292	211	5,292	211	4,068	162	4,068	162
法人等向け	119,533	4,781	120,038	4,801	114,975	4,599	115,427	4,617
中小企業等向け及び個人向け	60,469	2,418	60,394	2,415	67,183	2,687	67,135	2,685
抵当権付住宅ローン	58,586	2,343	58,586	2,343	58,798	2,351	58,798	2,351
不動産取得等事業向け	80,372	3,214	80,372	3,214	82,802	3,312	82,802	3,312
三月以上延滞等	141	5	142	5	622	24	685	27
取立未決済手形	-	-	-	-	-	-	-	-
信用保証協会等による保証付	3,305	132	3,305	132	3,268	130	3,268	130
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-	-	-	-	-
出資等	22,632	905	21,796	871	23,957	958	23,121	924
（うち出資等のエクスポージャー）	22,632	905	21,796	871	23,957	958	23,121	924
上記以外	9,055	362	9,411	376	9,839	393	10,199	407
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	2,500	100	2,500	100	2,125	85	2,125	85
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	1,674	66	1,851	74	2,717	108	2,902	116
（うち上記以外のエクスポージャー）	4,880	195	5,060	202	4,997	199	5,171	206
証券化	-	-	-	-	-	-	-	-
再証券化	-	-	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	17,075	683	17,079	683	18,958	758	18,958	758
（うちルック・スルー方式）	14,940	597	14,944	597	16,809	672	16,809	672
（うちマンドート方式）	2,135	85	2,135	85	2,149	85	2,149	85
（うち蓋然性方式（250%））	-	-	-	-	-	-	-	-
（うち蓋然性方式（400%））	-	-	-	-	-	-	-	-
（うちフォールバック方式（1250%））	-	-	-	-	-	-	-	-
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	4,479	179	4,479	179	4,479	179	4,479	179
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	-	-	-	-	-	-	-	-
【オフ・バランス取引等項目】 計	1,322	52	1,322	52	1,074	42	1,074	42
原契約期間が1年以下のコミットメント	3	0	3	0	24	0	24	0
原契約期間が1年超のコミットメント	1,142	45	1,142	45	876	35	876	35
信用供与に直接的に代替する偶発債務	176	7	176	7	174	6	174	6
（うち借入金の保証）	(176)	(7)	(176)	(7)	(174)	(6)	(174)	(6)
オペレーショナル・リスク (B) (基礎的手法)	17,597	703	18,123	724	18,061	722	18,586	743
総所要自己資本額 (A) + (B)		16,012		16,032		16,341		16,362

(注) 所要自己資本額=リスク・アセット×4%

3. 信用リスクに関する事項（リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く）（開示告示第10条第4項第2号、第12条第4項第3号）

●信用リスクに関するエクスポージャー及び三月以上延滞エクスポージャーの期末残高

【単体】	信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高										三月以上延滞エクスポージャーの期末残高	
	2021年3月期		2022年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2021年3月期		2022年3月期	
	貸出金、 その他の資産	有価証券	デリバティブ 取引	貸出金、 その他の資産	有価証券	デリバティブ 取引	貸出金、 その他の資産	有価証券	デリバティブ 取引	貸出金、 その他の資産	有価証券	デリバティブ 取引
国内計	758,893	784,863	664,795	686,747	94,097	98,116	—	—	330	1,045	—	—
国外計	6,507	6,156	—	—	6,507	6,156	—	—	—	—	—	—
地域別合計	765,400	791,019	664,795	686,747	100,605	104,272	—	—	330	1,045	—	—
製造業	91,236	92,743	67,085	67,079	24,151	25,663	—	—	—	—	—	221
農業・林業	148	160	148	160	—	—	—	—	—	—	—	—
漁業	48	63	48	63	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	48	61	48	61	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	55,325	59,425	54,226	58,225	1,099	1,199	—	—	14	1	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	9,021	9,636	3,797	4,312	5,224	5,324	—	—	—	—	—	514
情報通信業	4,490	4,220	1,745	1,647	2,744	2,572	—	—	—	—	—	—
運輸業・郵便業	20,052	20,460	16,666	17,511	3,385	2,948	—	—	—	—	—	13
卸・小売業	50,024	49,584	47,098	47,105	2,926	2,478	—	—	—	—	—	40
金融・保険業	106,963	113,653	91,556	98,352	15,406	15,301	—	—	—	—	—	—
不動産業	22,783	22,851	21,348	21,916	1,435	935	—	—	118	118	—	—
不動産賃貸管理業	31,646	33,798	31,262	33,414	384	384	—	—	—	—	—	—
物品賃貸業	1,454	2,041	1,454	2,041	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究・専門・技術サービス業	3,301	3,791	3,301	3,791	—	—	—	—	—	—	—	—
宿泊業	7,689	7,214	7,689	7,214	—	—	—	—	—	—	—	—
飲食業	6,270	6,538	6,270	6,538	—	—	—	—	—	—	—	—
生活関連サービス業・娯楽業	5,373	5,478	5,373	5,478	—	—	—	—	—	—	—	29
教育・学習支援業	1,303	1,398	1,303	1,398	—	—	—	—	—	—	—	—
医療・福祉	35,561	34,214	35,561	34,214	—	—	—	—	—	—	—	46
その他のサービス	13,450	13,756	10,740	11,525	2,710	2,231	—	—	—	—	—	0
国・地方公共団体	42,179	44,498	1,143	1,264	41,036	43,234	—	—	—	—	—	—
個人による貸家業	74,415	74,588	74,415	74,588	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	162,767	168,783	162,767	168,783	—	—	—	—	—	—	—	178
その他	19,841	22,055	19,741	20,057	100	1,998	—	—	—	—	—	—
業種別合計	765,400	791,019	664,795	686,747	100,605	104,272	—	—	330	1,045	—	—
1年以下	53,089	59,810	49,923	57,139	3,165	2,670	—	—	—	—	—	—
1年超3年以下	45,940	43,787	37,064	30,342	8,875	13,445	—	—	—	—	—	—
3年超5年以下	58,180	56,983	37,542	39,961	20,637	17,022	—	—	—	—	—	—
5年超7年以下	36,434	29,409	29,495	25,495	6,939	3,913	—	—	—	—	—	—
7年超10年以下	117,912	130,000	105,038	113,125	12,873	16,874	—	—	—	—	—	—
10年超	314,095	317,257	292,306	294,560	21,789	22,696	—	—	—	—	—	—
期間の定めのないもの	139,747	153,771	113,423	126,121	26,324	27,649	—	—	—	—	—	—
残存期間別合計	765,400	791,019	664,795	686,747	100,605	104,272	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 「貸出金、その他の資産」項目には、貸出金、コミットメント、現金預け金、コールローン等が計上されています。
2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャー、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%以上であるエクスポージャー。
3. エクスポージャーの内訳については、「貸出金、その他の資産」「有価証券」「デリバティブ取引」に区分し、従来業種別でその他に区分していたエクスポージャー等を詳細に区分し表示しております。

(注) 1. 「貸出金、その他の資産」項目には、貸出金、コミットメント、現金預け金、コールローン等が計上されています。
2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャー、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%以上であるエクスポージャー。
3. エクスポージャーの内訳については、「貸出金、その他の資産」「有価証券」「デリバティブ取引」に区分し、従来業種別でその他に区分していたエクスポージャー等を詳細に区分し表示しております。

●一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、投資損失引当金勘定の期末残高及び期中増減額

【単体】	期首残高			当期増減額			期末残高		
	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期	
一般貸倒引当金	—	—	347	630	978	—	—	—	
個別貸倒引当金	—	—	978	403	1,382	—	—	—	
投資損失引当金	—	—	1,056	752	1,808	—	—	—	
合計	—	—	1,403	1,383	2,786	—	—	—	

●個別貸倒引当金の地域別及び業種別内訳

【単体】	期首残高						当期増減額						期末残高					
	2021年3月期		2022年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2021年3月期		2022年3月期			
国内計	1,056	1,808	752	431	1,808	2,240	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
地域別合計	1,056	1,808	752	431	1,808	2,240	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
製造業	269	486	216	157	486	643	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
農業・林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
建設業	51	21	△30	△1	21	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
電気・ガス・熱供給・水道業	—	253	253	△85	253	168	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
情報通信業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
運輸業・郵便業	—	—	—	13	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
卸・小売業	176	153	△23	1	153	154	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
金融・保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
不動産業	118	618	500	△3	618	615	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
不動産賃貸管理業	103	31	△72	2	31	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
物品賃貸業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
学術研究・専門・技術サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
宿泊業	16	22	6	434	22	456	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
飲食業	131	48	△82	△15	48	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
生活関連サービス業・娯楽業	35	59	23	△24	59	35	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
教育・学習支援業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
医療・福祉	67	61	△6	△44	61	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
その他のサービス	29	1	△28	△0	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
個人による貸家業	46	41	△5	△2	41	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
個人	—	1	△0	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
その他	9	8	△1	—	8	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
業種別合計	1,056	1,808	752	431	1,808	2,240	—	—	—	—	—	—	—	—	—			

●業種別の貸出金償却の額

該当事項はありません。

●リスク・ウェイトの区分毎の信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高及び資本控除した額

【単体】 (単位：百万円)

	信用リスク削減手法勘案後のエクスポージャーの額			
	2021年3月期		2022年3月期	
	格付適用	格付不適用	格付適用	格付不適用
0%	—	194,869	—	217,303
10%	—	37,746	—	37,334
20%	30,667	—	20,891	—
35%	—	167,423	—	168,029
50%	20,635	23	22,739	53
75%	3,000	84,619	3,400	94,513
100%	17,419	203,887	14,374	207,508
150%	1,700	149	1,400	185
250%	1,000	669	850	1,087
1,250%	—	—	—	—
合計	74,422	689,389	63,655	726,014

(注) 1. 「格付適用」とは、リスク・ウェイト算定にあたり、格付を適用しているエクスポージャーであり、「格付不適用」とは、格付を適用していないエクスポージャー。なお、格付は適格格付機関が付与しているものに限る。
2. 「格付適用」エクスポージャーには、原債務者の格付を適用しているエクスポージャーに加え、保証人の格付を適用しているエクスポージャーや、ソブリン格付に準拠したリスク・ウェイトを適用しているエクスポージャーが含まれる。

【連結】 (単位：百万円)

	信用リスク削減手法勘案後のエクスポージャーの額			
	2021年3月期		2022年3月期	
	格付適用	格付不適用	格付適用	格付不適用
0%	—	195,671	—	218,104
10%	—	37,746	—	37,334
20%	30,667	—	20,891	—
35%	—	167,423	—	168,029
50%	20,635	8	23,642	8
75%	3,000	84,519	3,400	94,443
100%	17,924	203,213	14,374	206,839
150%	1,700	197	1,400	300
250%	1,000	740	850	1,161
1,250%	—	—	—	—
合計	74,927	689,522	64,557	726,222

(注) 1. 「格付適用」とは、リスク・ウェイト算定にあたり、格付を適用しているエクスポージャーであり、「格付不適用」とは、格付を適用していないエクスポージャー。なお、格付は適格格付機関が付与しているものに限る。
2. 「格付適用」エクスポージャーには、原債務者の格付を適用しているエクスポージャーに加え、保証人の格付を適用しているエクスポージャーや、ソブリン格付に準拠したリスク・ウェイトを適用しているエクスポージャーが含まれる。

4. 信用リスク削減手法に関する事項（開示告示第10条第4項第3号、第12条第4項第4号）

●信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期	
	単体	連結	単体	連結
適格金融資産担保が適用されたエクスポージャー	1,219	1,219	1,338	1,338
保証またはクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャー	6,968	6,968	9,447	9,447

5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項（開示告示第10条第4項第4号、第12条第4項第5号）

派生商品取引及び長期決済期間取引はありません。

6. 証券化エクスポージャーに関する事項（開示告示第10条第4項第5号、第12条第4項第6号）

当行では、証券化取引へのオリジネーターとしての関与はありません。また、投資家として当行以外のオリジネーターによる証券化商品の購入はありません。

7. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項
(開示告示第10条第4項第7号、第12条第4項第8号)

●銀行勘定における出資等の貸借対照表計上額及び時価

【単体】

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場している出資等	26,173		29,437	
上記に該当しない出資等	2,036		2,338	
合計	28,209	28,209	31,776	31,776

【連結】

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場している出資等	26,603		29,992	
上記に該当しない出資等	896		1,198	
合計	27,500	27,500	31,191	31,191

●銀行勘定における出資等の売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期	
	単体	連結	単体	連結
売却損益額	1,180	1,180	1,256	1,256
償却額	△339	△339	△232	△232

●貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額、貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期	
	単体	連結	単体	連結
貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額	6,274	6,416	5,681	5,928
貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—	—	—

8. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項
(開示告示第10条第4項第8号、第12条第4項第9号)

●リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期	
	単体	連結	単体	連結
ルック・スルー方式	18,740	19,140	21,715	21,715
マンドート方式	2,135	2,135	2,149	2,149
蓋然性方式 (250%)	—	—	—	—
蓋然性方式 (400%)	—	—	—	—
フォールバック方式 (1250%)	—	—	—	—

- (注) 1. ルック・スルー方式とは、ファンド内の個々の資産の信用リスク・アセットを算出し、足し上げたものを当該ファンドの総資産額で除すことで、リスク・ウェイトを計算する方式です。
2. マンドート方式とは、ファンドの運用基準に基づき、ファンド内の構成資産を保守的に仮定して個々の資産の信用リスク・アセットの額を算出し、足し上げたものを当該ファンドの総資産額で除すことで、リスク・ウェイトを計算する方式です。
3. 蓋然性方式 (250%・400%) とは、ファンドのリスク・ウェイトが250%又は400%を下回る蓋然性が高いことを疎明できる場合、250%又は400%のリスク・ウェイトを適用する方式です。
4. フォールバック方式 (1250%) とは、ルック・スルー方式、マンドート方式、蓋然性方式が適用できない場合、1250%のリスク・ウェイトを適用する方式です。

9. 金利リスクに関する事項 (開示告示第10条第4項第9号、第12条第4項第10号)

●銀行勘定における金利リスクに関する事項

【 IRRBB 1:金利リスク 】

【単体】

(単位：百万円)

	△EVE		△NII	
	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期
上方パラレルシフト	8,390	7,704	0	0
下方パラレルシフト	0	7	1	0
スティープ化	8,037	7,609		
フラット化				
短期金利上昇				
短期金利低下				
最大値	8,390	7,704	1	0
	2021年3月期		2022年3月期	
自己資本の額	45,566		47,124	

【連結】

(単位：百万円)

	△EVE		△NII	
	2021年3月期	2022年3月期	2021年3月期	2022年3月期
上方パラレルシフト	8,390	7,704	0	0
下方パラレルシフト	0	7	1	0
スティープ化	8,037	7,609		
フラット化				
短期金利上昇				
短期金利低下				
最大値	8,390	7,704	1	0
	2021年3月期		2022年3月期	
自己資本の額	46,573		48,154	